熊谷市まちなかウェルカム交通ビジョン　概要版　全体

■本ビジョンの目的

熊谷市は、令和5(2023)年7月に「熊谷スマートシティ宣言」を行い、デジタル技術を活用した都市サービスの社会実装フェーズへと移行した。すでにコミュニティバスのデジタル回数券などの交通サービスをはじめとした各種の市民サービスがポータル（入口）となるアプリから提供され、複数のデジタル施策が稼働している。

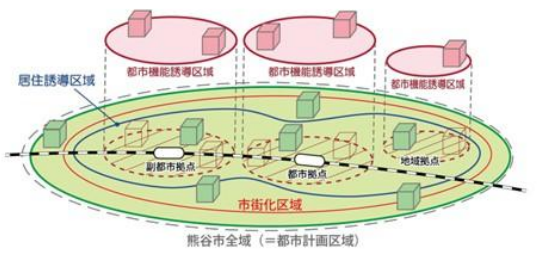
本ビジョンでは、まちなかを自転車や徒歩を含む様々な交通手段の結節点としてとらえ、市域全体のコンパクト&ネットワークの取組と連動しながら、そして市外の鉄道沿線等の住民につながる広域のネットワークに向けても熊谷の魅力とサービスの価値を発信し交流人口や関係人口の拡大を図りながら、デジタル技術の実装やデータ活用を取り入れて交通・モビリティを確保することにより、持続的で活力のある地域づくりを目指す。

■本ビジョンの構成

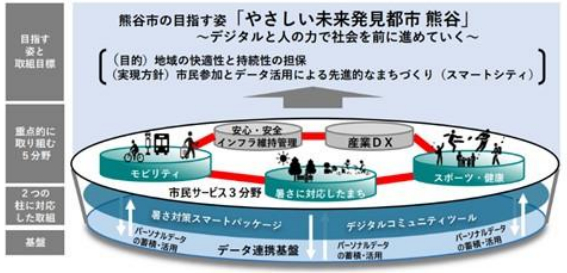
1．本ビジョンの目的
2．まちなか交通の可能性を広げるトレンド
　2－1．人流データ活用可能性の拡大
　2－2．モビリティ等の選択肢の拡大
3．「まちなかウェルカム」と公民連携まちづくりが連携した「交通まちづくり」への取組
4．「熊谷版モビリティフレンドリーなまちづくり」と「まちなかモビリティ・サービスロボット政策ロードマップ」
5．今後の検討について

まちづくりの方向性とまちなか交通の考え方

- 熊谷市が目指す「人や地域がまとまり・つながるまち」
  - 基本理念：地域資源を生かした独自性と自立性の高い持続可能なまちづくり
    子どもたちが郷土愛を育みながら健やかに育つ都市づくり　※第2次熊谷市総合振興計画後期基本計画より
  - 将来都市像：未来に向かって人や地域がまとまり・つながるまち　くまがや　※都市計画マスタープランより



＜市の都市機能と居住の誘導のイメージ＞
資料：立地適正化計画



＜熊谷スマートシティの取り組み概要＞
資料：熊谷スマートシティ実行計画

連動

- まちなか交通（特に交通結節点機能の発揮）の考え方を整理



熊谷市まちなかウェルカム交通ビジョン　概要版　位置づけ（全体版P3-5）

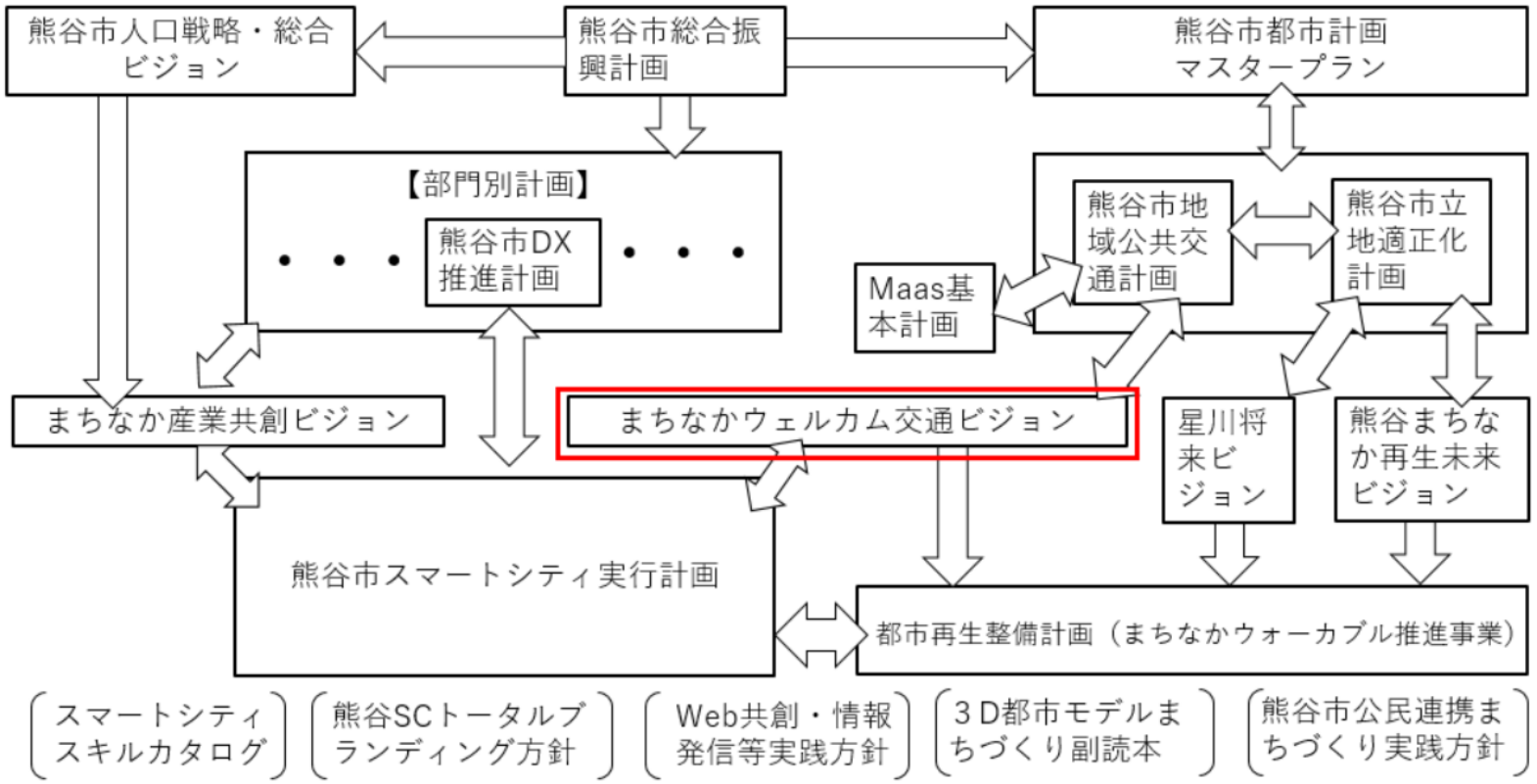
■本ビジョンの位置付け

本ビジョンは、以下の市の上位・関連計画と整合を取りながら、公民連携まちづくり×交通・モビリティ×スマートシティの各分野の政策が円滑に連携を図ることを目的に設定される。

これらの計画群を「まちなかウェルカム」をキーワードにしてつなぎ各分野の関係者がまちなかの公共交通やモビリティについて当面目指す将来像を共有することで、相互の取組を調整し、一層の連携を図ることが可能となる。

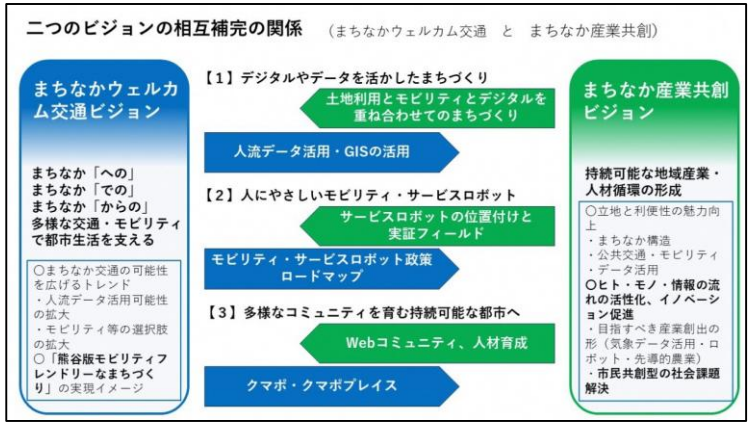
本ビジョンの内容は社会のニーズの変化や、技術の進歩、新しい社会課題解決の発想などの必要性により、柔軟に見直されることを想定する。

熊谷市まちなかウェルカム交通ビジョンの位置付け



■本ビジョンと「まちなか産業共創ビジョン」の補完関係について

本ビジョンは、別の視点の「まちなか産業共創ビジョン」と連携して「データ活用」まちづくり「モビリティ・サービスロボットの導入」「多様なコミュニティ育成」等の円滑な実現を目指す。



熊谷市まちなかウェルカム交通ビジョン　２－１　人流データ（全体版P10-14）

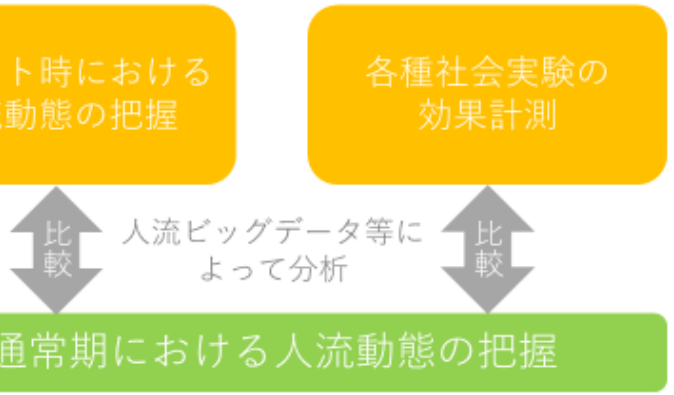
■２．まちなか交通の可能性を拡げるトレンド
■２－１．人流データ活用可能性の拡大

デジタル技術の普及により、携帯電話が基地局に接続することで得られる位置関連データについて、個人が特定されないような匿名化・統計化した情報として、通信事業者等から提供、利活用する仕組みが整備されているほか、スマートフォンで提供されるサービスの利用履歴について利用者が了承した場合にのみ蓄積・利用を可能とする方式（オプトイン方式）によりデータを得る手法、AIを用いて、カメラ端末の中である方向に移動する人数のカウントのみ行い画像を保存しないことで個人情報を守りつつ通行量データを得る方法など、様々な形で人流データを確保できる可能性が高まっている。

これらのデータは交通・モビリティ政策やまちづくり政策における、立案や検証、市民参画の促進等に有効に活用されるべきである。そのためには、各政策の担当がそれぞれの目的で得たデータを可視化する際に、当面必要な図面の画像データを得ることだけでなく、位置情報等が適切に付与された再利用可能なデータを得ることを成果として認識し、業務の仕様への記載等を行うことで、市役所・市民のデータ資産を築いていく考え方が重要である。そのため、「熊谷市　データ活用まちづくりのためのGISデータ作成標準」を定め、まちづくり部局がその政策のため作成した各種人流データやその分析結果のデータを蓄積・共有することに取り組むと共に、職員・市民のデータ取扱いの機会の拡大に取り組む。

（１）熊谷市における人流分析の手法と目的

様々な移動手段による人々の動きをデータ化し、社会実験やイベント時に通常期と比べてどのような変化が起きるかを分析することが中心となる。携帯電話の基地局への接続から得られるビッグデータの分析に加え、目的に応じてその他の人流把握手法の導入、個人情報の保護に留意しながらの蓄積・共有・活用に取り組む。



（２）都市機能誘導区域における来訪者数把握の例

■街区別来訪者数の分布（都市機能誘導区域内）（R6(2024)年度作成データ）



熊谷市まちなかウェルカム交通ビジョン　２－１　モビリティ（全体版P15-21）

■２．まちなか交通の可能性を拡げるトレンド
■２－２．　モビリティ等の選択肢の拡大

現在、時速２０ｋｍ未満の低速から時速数kmの超低速まで、また少人数用から個人用まで、様々なタイプのスローモビリティが開発・普及され、交通まちづくりの選択肢となりうる。同時に、運転士の不足などを受けて、各地で自動運転技術の開発が進むと共に、無人配送や、荷物を載せて歩行者に自動追従する、あるいは案内のために先導するなど、暮らし・仕事の様々な場面で、移動型のサービスロボットの実用化が急速に進んでいる。

公民連携まちづくり面におけるスローモビリティの導入可能性の検討と、これまでのスマートシティの取組から得られた産学官の連携・共創の基盤を活かしての全自動のモビリティ・配送等サービスロボットの安全確保手法に係る検討・実証を平行して進めることが想定される。













■３．「まちなかウェルカム」と公民連携まちづくりが連携した「交通まちづくり」への取組

令和５(2023)年７月のスマートシティ宣言に合わせて開催されたスマートシティシンポジウムにおいて、「データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー」を表明。

その後、公民連携まちづくりとしては、「熊谷市　公民連携まちづくり実践方針」（令和６(2024)年３月公表）において、「交通まちづくり」を位置付け、「ICTの活用」の方針を明示した。

その実践として「星川将来ビジョン」（令和６(2024)年４月公表）において星川沿いのまちづくりの一環としてグリーンスローモビリティの可能性に着目していることを示し、令和７(2025)年秋に社会実験を実現した。

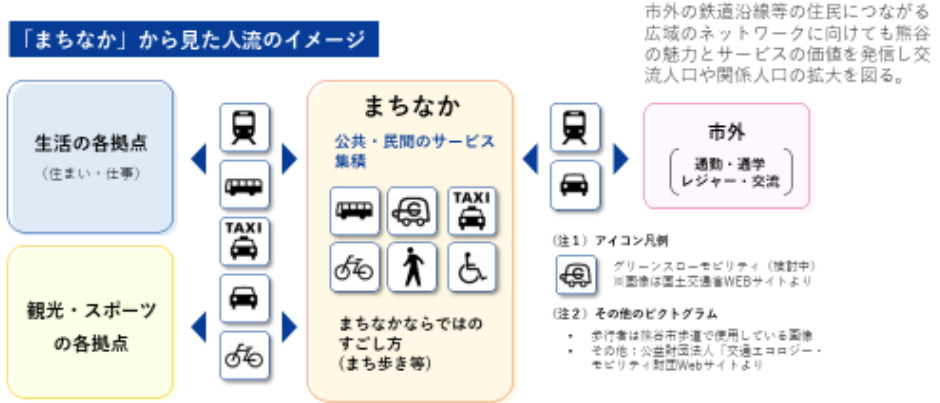
一方で、スマートシティとしては、人流データの活用と並行して、今後の市民生活を支えるため、全自動運転や配送等サービスロボットの可能性に向けた検討に取り組んできた。また、「熊谷市地域公共交通計画」を補完する「熊谷市Maas基本計画」（令和７(2025)年３月公表）に基づいて令和８(2026)年１月より妻沼地区で運行を開始した「乗合型オンデマンド交通」について、その利用状況の分析による効率化や利用促進に交通部門とスマートシティ部門が連携して取り組むことを想定している。

データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（１）

（抜粋）「熊谷市スマートシティシンポジウム資料」（令和５(2023)年７月）

（人流データ活用まちづくりについて）

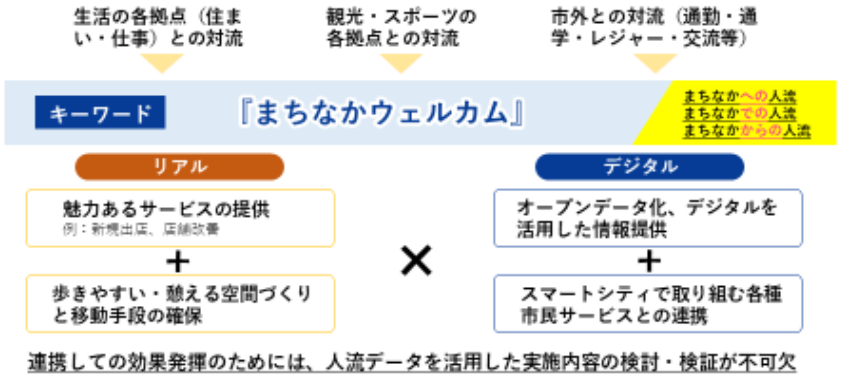
～まちなか再生の切り口からのアプローチ～



データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（２）

（抜粋）「熊谷市スマートシティシンポジウム資料」（令和５(2023)年７月）

（まちなかでの体験創造・実証の場の検討）

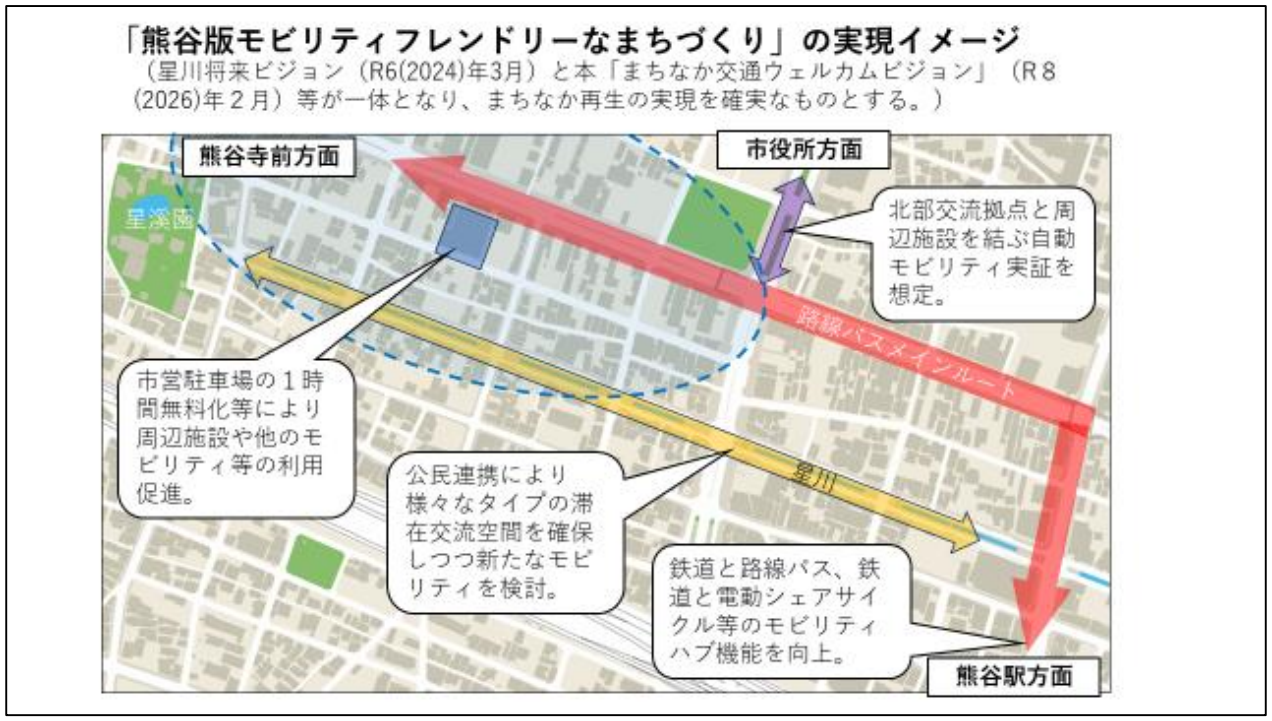


熊谷市まちなかウェルカム交通ビジョン
4　モビリティフレンドリーなまちづくりとサービスロボット（全体版P28-34）

■４．「熊谷版モビリティフレンドリーなまちづくり」と「まちなかモビリティ・サービスロボット政策ロードマップ」

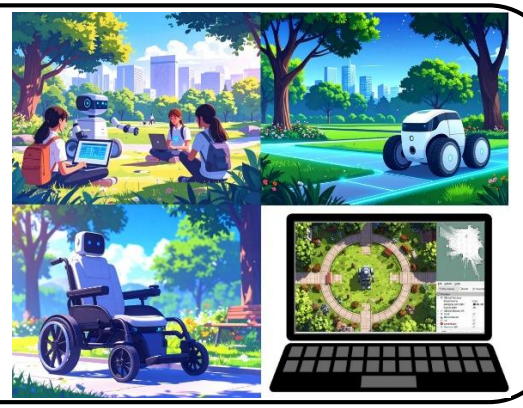
現在の熊谷市のまちづくりは、「交通まちづくり」の考え方の定着の課題と、熊谷スマートシティの取組により蓄積されつつあるデータ、その取扱ノウハウ、有識者のネットワークをさらに市民に還元できる形で発展させることの課題の両面で過渡期にある。

今後、関係部門の連携の要となる本ビジョンを適切に更新し、スローモビリティの導入可能性の検討の段取りと、これまでのスマートシティの取組から得られたデータ取扱いのノウハウや産学官の連携・共創の基盤を活かしたモビリティ・配送等サービスロボットの検討・実証の段取りを整合させることが可能と考えられる。この取組により、市民の生活を支える技術を適切に選択し、組み合わせ、円滑に導入することのできる都市を目指す。



市役所の想定する実証

公園内実証



市役所の想定するユースケース



道路空間で、高齢者向けを中心とした多様な生活支援ロボット

熊谷市まちなかウェルカム交通ビジョン　5　今後の取組（全体版P35-89）

■５．今後の取組について

モビリティの導入しやすさ等にまちの側からも取り組む交通まちづくりの観点、また人流データ活用や、自律的に移動可能なモビリティ・サービスロボットなどを実現するデジタル技術の観点の両面について、本ビジョン等により関係者の連携を図り、検討を深めることで、市民の移動手段を確保すると共に、様々な活動・体験が生まれる活力あるまちを維持していく。

■関連する取組（参考資料）

【１】熊谷市役所　公共交通・自転車利用促進プロジェクトチームの取組
【２】本ビジョンに掲載の人流分析使用データ概要と新たな取組（シェアサイクルシステムとの連携）
【３】「熊谷市　データ活用まちづくりのためのGISデータ作成標準」概要
【４】その他の交通まちづくりに関するデータのオープン化等について
【５】令和７(2025)年度　星川エリアにおけるグリーンスローモビリティ実証について
【６】ビーコンを活用した人流データの取得の仕組み
(R7 (2025)年度グリーンスローモビリティ実証と連動)
【７】相互扶助型の地域通貨クマポを乗り合い交通等への感謝の気持ちの表明として利用することについて











